

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又 は発表 の年月	発行所、発表雑誌又 は発表学会等の名称	概 要	編者・著者名 (共著の場合 のみ記入)	該当頁数
(著書) なし						
(学術論文) 1. 長期留年学生の心理及び 行動の特徴－ひきこもり経 験のあるアパシー青年の事例 とロールシャッハ・テストの 結果を通じて－	単著	2010. 3 (平成22年3月)	高野山大学論叢	スチューデント・アパシーには、授業には出席せず留年を繰り返すが、アルバイトなど他の学生生活には問題がない部分的退却と、そのまま下宿や自宅に引きこもる全体的退却を示すものがあると指摘されている。この全体的退却は、現在社会問題化している「ひきこもり」の状態像と類似しているが、アパシーとひきこもり、部分的退却と全体的退却の質的異同についての検討はなされていない。本論考では、ロールシャッハ・テストを用いて、ひきこもり経験のあるアパシー学生の心理的特徴を示し、アパシーの部分的退却と全体的退却の違いを検討した。これまでの報告では、アパシー学生のロールシャッハ・テストの特徴として、体験型は運動型であること、知性優位で情動を排除していることが指摘されていた。しかし、本論考の事例のテストでは、体験型は色彩型であり、容易に情動の混乱が生じることが特徴的であった。この混乱を回避するために、ひきこもり状態を呈しやすくと考えられ、部分的退却と全体的退却には異なる心理的要因があることが示唆された。		71-86
(その他) なし						
(口頭発表) 1. 遠隔カウンセリングの 可能性 (II) Squiggleを通して		1997. 7 (平成9年7月)	日本カウンセリング学会第30回大会	双方向通信システムを用いテレビモニターを通じて遠隔地間でのカウンセリングの可能性を探るため、描画法のSquiggleを実際に対面式で行う場合と通信システムを用いた場合の2条件を比較した。システムの改善点として描画がモニターに表出されるまでに遅れがあること、相手との場の共有感が得にくいことがあげられた。一方対人緊張の高い人には相手が近くにおらず、描画もPC上で加工しやすいため、「遊ぶ」感覚が得やすいという利点もあげられた。 今後の通信容量の増大PCツールの機能向上が遠隔地間でのコミュニケーションには必要であることが示され、カウンセリングへの応用や実用性が高まるものと思われる。	森崎雅好 岡部麻衣子 木村貴子 山下修一	216-217
2. 未知物の名称の獲得に 及ぼす文脈の影響 －相互排他性バイアスを乗り越えるための要因の検討－		1998. 3 (平成10年3月)	日本発達心理学会 第9回大会	乳幼児が効率的に事物の命名を行い名称を獲得していくためのバイアスとして相互排他性(一事物一名称の原則)が指摘されている。しかし現実には、同一事物に複数の名称があり、後にこのバイアスは乗り越えなくてはならない。本研究ではこのバイアスを乗り越えるための要因を検討し、2つの要因を見出した。①他言語意識(他の言語があると考え同一事物に複数の名称をつける)、②対人方略(出会う他者との関係性において名称をつける。他者が増えれば、それに応じて、複数のラベルをつける。) しかし、年長児より年少児に対人方略がみられ、年長児で他言語意識のあるものは、かえって複数の名称をつけにくく、その他の言語の中ではバイアスが存在していることが示された。さらに低年齢の乳幼児での検討が必要と考えられる。	森崎雅好 仲真紀子	135
3. 不注意と不器用さが目立つ 女子大学生への臨床動作法の 適用		2009. 10 (平成21年10月)	日本臨床動作学会 第17回学術大会	大学に通い始めてから、自分の忘れ物の多さ、不注意・不器用さの問題に気がついた女子大学生に臨床動作法を適用し、自己の問題と向き合うようになった過程を検討した。忘れ物・不注意の問題は、自分のからだのコン		42-43

<p>〈文部省科学研究費補助金〉 なし</p>		<p>感の問題は、ロレックからコントロール、注意の集中・維持の困難が背景にあると考えられる。動作課題を通じて筋肉の緊張と弛緩の訓練を行い、生活主体である“自分のからだ”のコントロール性を高めた。結果、忘れ物の訴えは、3ヶ月でほぼなくなり、自身が日々の生活で“今だけ”しか考えていないことに気付き、自分の問題に主体的に取り組み始めるようになった。</p>	
-----------------------------	--	--	--

学会等および社会における主な活動 森崎雅好	
所属学会	
平成9年7月(1997年7月)	日本カウンセリング学会 第30回大会口頭発表(発表のため臨時入会)
平成10年3月(1998年3月)	日本発達心理学会第9回大会ポスターセッション発表(発表のため臨時入会)
平成17年5月(2005年5月)	日本心理臨床学会入会
平成19年11月(2007年11月)	日本臨床動作学会入会
平成21年10月(2009年10月)	日本臨床動作学会第17回学術大会研究発表
①社会参加	
平成19年10月(2007年10月)	和歌山県こころのレスキュー隊CRT(クライシスレスポンスチーム)所属隊員
平成21年4月(2009年4月)	和歌山県臨床心理士会 役員理事(自殺・メンタルヘルス担当理事)
平成21年5月(2009年5月)	和歌山県精神保健センター 自死遺族わかちあいの会参加
注記:上記3つの活動は、現在も継続中	
②講演・研修会講師	
平成18年7月(2006年7月)	研修「教師のための教育相談」(高野町教育研究会・保健部会)
平成19年1月(2007年1月)	講演「子どものこころに寄り添って」(高野町婦人学級研修会)
平成19年4月(2007年4月)	九度山町婦人研修会 講師(九度山町役場 ふるさとセンター)
平成19年7月(2007年7月)	精神保健福祉関連新任者研修 研修会講師(和歌山県精神保健福祉センター)
平成20年2月(2008年2月)	伊都地方教頭会 「危機管理と教頭の役割・教頭のヘルスケアー学校危機とCRTについて」 研修会講師(あじさいホール)
平成20年6月(2008年6月)	那珂食生活改善推進協議会 講師(岩出保健所)
平成20年7月(2008年7月)	精神保健福祉関連新任者研修 研修会講師(和歌山県精神保健福祉センター)
平成20年10月(2008年10月)	ひきこもり家族会 研修会講師(和歌山県精神保健福祉センター)
平成20年12月(2008年12月)	紀北地方栄養士研修会 講師(岩出保健所)
平成21年2月(2009年2月)	「自死遺族のための講演会」講師(和歌山県精神保健福祉センター)
平成21年2月(2009年2月)	ひきこもり家族会 研修会講師(和歌山県精神保健福祉センター)
平成21年2月(2009年2月)	和歌山大学保健管理センター メンタルサポート新設2周年公開シンポジウム「現代の若者の心の病理を考える-メンタルサポート室からの提言-」シンポジストとして参加
平成21年3月(2009年3月)	岩出保健所「健康セミナー 思春期のメンタルヘルス」講師(和歌山県立貴志川高校)
平成21年6月(2009年6月)	精神保健福祉関連新任者研修 研修会講師(和歌山県精神保健福祉センター)
平成21年6月(2009年6月)	田辺地区公衆衛生研究会「動作療法について」講師(田辺市民総合センター)
平成21年10月(2009年10月)	高野山真言宗中国ブロック教師研修会「人権教育 人のこころ模様」講師(山口県)
平成21年11月(2009年11月)	いのちの電話相談員全国研修会 和歌山大会講師(和歌山県民文化会館)
平成21年11月(2009年11月)	ひきこもり家族会 研修会講師(田辺保健所)
平成21年11月(2009年11月)	和歌山県高等学校PTA連合会 講演会講師(紀の国アパローム)
平成21年11月(2009年11月)	第51回 和歌山県学校給食研究協議大会 講演会 講師(あじさいホール)
平成21年1月(2009年1月)	難病応援カウンセリング講座 ピアサポート研修会講師(和歌山県難病・子ども保健相談支援センター)
平成22年2月(2010年2月)	精神障害者家族教室・精神障害者ボランティア教室研修会講師(御坊保健所)
注記:平成13年~17年 千葉県内にて主に発達障害・スクールカウンセリング関係の講演会・研修会講師を多数行う。	

大学行政への係わり（所属委員会）	
平成22年度（2010年）	学生部協議会 人権研究会 選挙管理委員会

所属	文学部	職名	助教	氏名	森崎雅好	大学院の授業担当の有無 (無)
教育活動						
教育上の主な業績		年月日	概 要			
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			<p>講義終了時に学生に出席表を配布し、講義内容についての感想または質問を記入してもらっている。次回の講義では、学生からの質問について答えるようにしている。</p> <p>また、描画法や箱庭療法などの心理療法について学ぶ講義では、視聴覚機材(パワーポイント等)を使用し、学生が理解しやすい講義となるように工夫している。</p>			
2. 作成した教科書、 教材、参考書			特に無し			
3. 教育方法・教育実践 に関する発表、講演等		2002年10月	千葉県中原市 幼・小・体育研修会 講演「発達障害をもつ子どもの理解とその対応について」			
		2004年7月	千葉県総合教育センター特別支援教育部研修講座 教職員夏期研修講座 「LD・ADHD児等の指導法ーソーシャルスキル・トレーニングの実際」(1日研修)			
		2008年2月	千葉県伊都郡旭ヶ丘町 講演「危機管理と教頭の役割・教頭のヘルスケア ー学校危機とCRTについて			
		2009年11月	千葉県千葉市稲佐区 講演「心と体の栄養 食えることとコミュニケーション」 ※注記：他に小中学校での教育研修会、ひきこもり家族会、保健所などで講演多数。			
4. その他教育活動上 特記すべき事項		1999年4月～ 2004年3月	千葉YMCA 軽度発達障害児支援プログラムの立ち上げ事業に関与、社会性指導クラスの開設、発展に寄与。 2007年2月 千葉YMCAより感謝状を贈られる。			